

「東日本大震災アーカイブシンポジウム：地域の記録としての震災アーカイブ～未来へ伝えるために～」を開催しました(2016/01/11)

テーマ：アーカイブ

場 所：東北大学災害科学国際研究所 多目的ホール（宮城県仙台市青葉区）

URL：<http://shinrokuden.irdes.tohoku.ac.jp/symposium/sympo20160111>

1月11日（月）、当研究所1階多目的ホール（宮城県仙台市）で「東日本大震災アーカイブシンポジウム：地域の記録としての震災アーカイブ～未来へ伝えるために～」（主催：東北大学災害科学国際研究所、国立国会図書館）が開催されました。本シンポジウムは、震災発生の翌年から毎年1月の東日本大震災の月命日（11日）に開催しているほか、昨年（2015年）の第3回国連防災世界会議等でも開催しており、本シンポジウムは第5弾、全体では第7弾となります。

第1部は、アチエ津波博物館のトミー・ムリア・ハサン館長をお招きし、特別講演を行っていただきました。第2部は、事例報告として、比較的、最近公開となった3つのアーカイブについて、担当者からプロジェクトの紹介をいただきました（八戸市、宮城県、浦安市）。第3部では、進捗報告として、岩手県への支援（新たな活動）、国立国会図書館（連携の中核としての役割）、東北大学でのプロジェクト（学術的な視点）について経過報告がありました。当研究所からは、今村文彦所長が開会の挨拶の中でアーカイブ活動の課題と利活用への期待を述べ、柴山明寛准教授が「岩手県における震災アーカイブの現状」という題目での講演と総合司会、佐藤翔助教が「社会の減災を指向する災害アーカイブと災害伝承—みちのく震録伝と震災発生から5年目の災害科学的アプローチ」と題して講演を行いました。冒頭のハサン氏の英語での特別講演について、桜井愛子准教授が逐次通訳、ポレー・セバスチャン助教が資料翻訳・講演通訳支援を行いました。

第4部として、パネルディスカッションを行いました。事例報告と進捗報告を行った登壇者から、今回のシンポジウムの副題にある「地域の記録としての震災アーカイブ」を実現する上での方策に関する意見・アイデア、フロアから多くの質疑やコメントをいただきました。当日は、約180名もの来場をいただきました。



今村文彦所長（開会の挨拶）



柴山明寛准教授（進捗報告）



佐藤翔助教（進捗報告）



会場の様子